

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 10 月 5 日

【評価実施概要】

事業所番号	2171800218		
法人名	株式会社ファミリー中部		
事業所名	グループホームファミリー		
所在地	岐阜県土岐市泉町定林寺962番地76 (電話) (0572) 55-4155		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成19年9月26日	評価確定日	平成19年11月19日

【情報提供票より】 (平成 19 年 8 月 20 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 11 月 5 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 12 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	11.8 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋及び木造 造り		
	2 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	8,000～ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 8 月 20 日 現在)

利用者人数	17 名	男性 5 名	女性 12 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名
要介護3	8 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	1 名
年齢	平均 84.8 歳	最低 75 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	沢田医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

郊外の国道沿いのゆるやかな坂の中腹に建つ、自然豊かな、静かなグループホームである。周囲は民家が数軒、近所は事務所や小工場で、近くに道の駅もある。テナントのビルを改造・改築して快適に生活できるよう、また、利用者にとって安全でかつ居心地の良いように工夫されている。庭は職員のボランティア活動として、季節の花や野菜が植えられ、手入れされている。シンボルツリーとして庭の一角に大きな桐の木がある。1号館は安全にと手すりがぐりと設置されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	要改善点はなかったが、ホームが地域に根づいた運営推進会議や、自己評価をすることで、ケアの見直しに気付き、前向きに対策を取って来た。ミーティングや会議を1ヶ月に1回、定期的に開催するようになった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	日々の会議や運営推進会議での提案項目が明確になり、話し合いに建設的な意見が出せるようになった。より良いケアサービスを提供できるように前向きに取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の内容はホームの行事報告や、家族の意見、地域の情報・協力医からのアドバイスが主なものである。9月に家族から1ヶ所の居間や廊下の換気が悪いと意見が出され、すぐに家庭用換気扇を設置し、対応した。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見は、面会に来た時やホームからの電話連絡の時に聞いたり、運営推進会議に参加した時に出してもらい、対応している。職員は相談や意見を聞いたら、必ず管理者に報告して連絡用ノートに記録してしている。家族とのコミュニケーションを大切にし、意見を出しやすい関係づくりに前向きに取り組んでいる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	住宅街と離れているため、なかなか地域と連携が取りにくいだが、運営推進会議で地域の行事等の情報を得、連携を取ろうと努力している。また、職員が地域の草取りにも参加し、中学生のボランティアの受け入れもしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者中心で笑顔・ゆっくり・傾聴・情報開示・利用者さんの家で仕事をさせていただいている」と、独自の理念がある。		地域に基づいた理念を盛り込まれる事を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員間で理念を日々の実践の中で共有し、前向きな姿勢で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市街地から離れているが、地域の一員として、行事の案内等の情報をもらっている。また関係づくりの一方法として、職員が地域の草取りに参加し協力している。	○	利用者が地域の仕事に参加出来る取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の改善課題をできることから改善しようとする姿勢がある。会議の定例化を求める改善課題については、定期的に職員会議(第2水曜)を開いて話し合いをするようになった。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族代表、区長、民生委員、市担当課、さらには協力病院医師の参加もあり、認知症の対応の理解を深めている。今年9月に出された家族の意見にはすぐに対応している。地域の行事等の情報は会議を通して得られている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームのケアマネジャーは、月1回以上、市の担当課へ出向いている。地域の情報交換も速やかに行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	管理者は利用者の体調や金銭管理について、家族に報告している。報告の窓口を管理者に1本化して家族に正確に伝わるよう努力をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気軽に意見を言える職員との関係づくりに取り組んでいる。また、面会や電話で相談や意見を出されることがあり、管理者にその内容を速やかに報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまでに、勤務体制が職員の希望とうまく調整が出来ず、職員の異動や離職があるが、手が足りない時は、併設されているデイサービスや自主事業の短期入所サービスの職員の応援を得て、利用者には不安を与えない努力をしている。	○	出来る限り、応援体制ではない人事配置を期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一部の職員は認知症対応ケアやケア計画等の外部研修に参加している。	○	外部研修内容は職員会議での報告会や報告書などで共有されることが望まれる。また、職員のレベルに合った研修体制に期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会に加入し、管理者・介護支援専門員と参加者が限定されているが、積極的に交流が持たれている。	○	交流で得た情報は利用者と直接関わっている職員に提供し、それが活かされる取り組みに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	緊急のケースが多く、時間をかけての利用が困難ではあるが、体験入居の利用方法をとることも出来るシステムがある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ばれを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ぬり絵をしたり、童謡や懐かしの曲などを活用しながら過去を振り返り、共にケアの中で時間を共有している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なミーティングで1人ひとりの思いを受け止める介護について話し合い、日々努力している。思いを表現できない方には他の方法で把握に努めている。なじみの新聞の購読・牛乳を飲む生活習慣を継続している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員が、利用者・家族の要望・希望を聞き取り、作成している。	○	職員全員が個々の気付きを出し合い、チームとして利用者1人ひとりの意向を大切にしたい介護計画の作成が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護支援専門員は定期的に見直しを行っている。	○	介護計画の見直しには職員全員で関るようミーティングをする努力を期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じた、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	送迎や短期入所サービス・デイサービスがあり、利用者はレクリエーションをデイサービスと共に楽しんでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の了承を得て、今までの主治医から協力医に変更し受診している。往診もあり、運営推進員会にも出席してもらい、力強い協力者である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族・協力医・ホームで重度化や終末になる前に話し合いをして書面で合意を得ている。以前、胃癌末期の方を受け入れたケースもあった。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングで、日常的に利用者の尊厳を損ねる様な言葉使いに気を付けるようにお互いに注意している。また、個人ファイルは事務所からの持ち出しを禁止している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力利用者の希望要望に沿うように努めている。体調・天候に合わせて配慮しているが、運営上人員の配置で対応が無理な時には、家族に了解を得ている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭きや下膳は利用者が行っている。湯のみは各自自宅から持ち込んだものを利用し、隣同士で声を掛け合い注意をしながら、ほほえましく楽しんで昼食を取っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1週間に3回の入浴をしている。利用者の介護度が高く、入浴ケアを大切にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	懐かしい唱歌が流れると大きな声を出してはっきりと歌い、楽しそうな表情をし、その周りの人も一緒に歌い始めた。また、ぬり絵や脳トレーニングやビデオ鑑賞が、いつでもできるように用意されていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や、ドライブ、花フェスタ訪問など、デイサービス利用者と共に計画して支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠はされていないが、センサーが設置されて、チャイムが鳴るようになっている。外へ出たい利用者には思いに沿うように付いて行くことを基本にしている。	○	一部の職員・運営者・介護支援専門員の理解にとどまっているため、鍵をかけないケアの実践を全員で話し合い、納得のいくケアになるよう期待する。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害訓練は利用者と共に実施されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者1人ひとりに応じた量が盛り付けされている。体調に応じて、口当たりの良いものやスポーツドリンク、利用者の好物など適宜対応して工夫されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	訪問前日が中秋の名月の名残で、居間にはススキと萩とカリンが花瓶に活けられていた。トイレや浴室などは分かりやすく表示されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居場所がホールの椅子と庭のベンチしかないが、季節の花を飾り努力する姿勢が見られている。また日当たりのよい居室で、友人同士時を過ごしている。	○	家族の協力を得て、利用者のなじみの物品を持ち込んでもらい、少しでもこれまでの暮らしに近づけ、ケアの充実に活かして欲しい。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。